ポスター9　　ポスター発表（実践）

互いの学校のことを伝え合おう
―センター校における聞く・話す活動―

南部　雄一郎（江戸川区立一之江小学校）

実践の場の特徴

江戸川区立一之江小学校は、都営新宿線一之江駅より、徒歩８分程の住宅地にある小学校。日本語学級が併設されており、専任３人で、学級での時間割に合わせ個別指導と２～３人程度のグループ指導をしている。保護者の勤務や国際結婚で来日した外国人児童が中心である。テキストやカードを使った指導の他、作文指導、音読を行っている。初期指導を終えた児童は、教科学習の予習と補習を行い、学年相当の学力が身に付くよう段階的に指導している。

実践の目標

①よく分からない時やもっと聞きたいことがあるときの表現を知り、相手に尋ねることができる。
②学校行事や学校生活に関わる語彙を増やし、それを使って表現することができる。

具体的な実践の内容とその過程

対象児童２名は、中国籍の１年生である。本単元は、相手に伝えたり、相手に質問したり感想を述べたりして、自分の学校について報告し合う学習である。

自分の学校のよさを考えるための手立てとして、「〇〇小の私が好きな〇〇ランキング」を作成し、それを元に、三択クイズ大会を行う。話し手には、クイズの出題順を決めさせ、相手への出題意欲をもたせていく。一方、聞き手には、出題の要点を落とさずに集中して聞けるよう、BGM を使って場の雰囲気作りをしていく。

相手の学校のことについてもっとよく知るための手立てとして、質問シートを作成し、会場にいる先生に、質問をする活動を行う。ここでは、場面や状況によって常体から敬体へ言葉づかいを変える必要があることをおさえる。

結果と考察（目標の達成度・課題）

クイズや相手への質問を通して「自分の話を相手に伝えることができて楽しかった。」、「相手の話を聞けて面白かった。」と日本語の学習成果に自信を持つことができた。課題としては、敬体の言葉づかいの指導が、型にはめすぎたものになったことである。敬体について段階的に指導をしていく際、どのような学習過程を踏めばよいか、今後の検討事項である。